



京町家に耐震、耐火補強

京都市の補助制度を初めて受けて耐震、耐火補強された京町家5戸が十三日、上京区新鳥丸通丸太町上ルの現地で公開された。柱や基礎の補強で、さらに数十年の使用に耐えられるようになされられており、市は「古い町家でも安全に住めるように支援し、残せる町家は残したい」とアピールした。

市の補助制度を初適用

さらに数十年耐用

同制度は、伝統的な京町家を保存するため、昨年度に創設された。五戸以上の場合、耐震改修する場合、耐震、耐造二階、長屋建ての五戸

火補強などにかかる工事費のうち、最大三分の二がる屋根裏には延焼防止の隔壁を設けた。また、高齢者でも住めるように段差を無くし、階段に手

上京で5戸公開

（一戸当たりの延べ床面積約五十平方㍍）が改修された。耐震補強として、柱とはりの接合部にダンパーと呼ばれる金具を設置、基礎部分も柱同士を木材で連結した。防火対策では、外壁に燃えにくい素

（総事業費は約三千五百五〇万円で、うち約八百万円を市が補助。入居者は五戸とも公募で決まった。

アフリーア化も進めた。補助対象とはならないものの、内装もフローリングなどに一新し、入居やすい環境を整えた。

解体も仕方ないかと思つてはいる人は、まず相談してほしい」（住宅政策課）と呼びかけている。